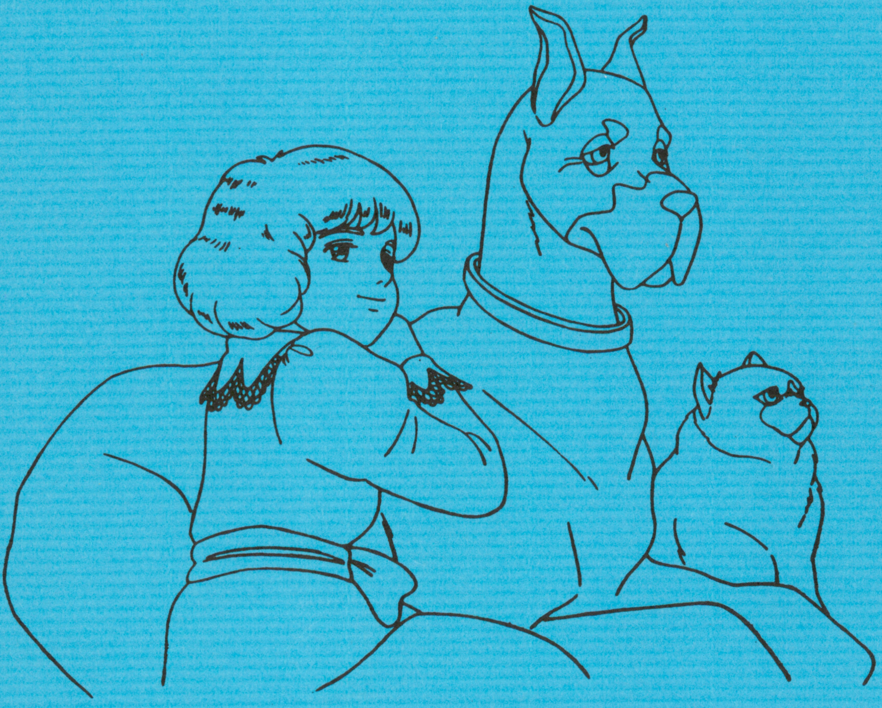
世界名作劇場

小公子セディ

（しょう こう し）

第 38 話

『危うしセディ！ロンドンからの知らせ!!』



提供 ハウス食品

制作 フジテレビ
日本アニメーション

脚本石森史郎

登場人物（第三十八話「危うしセディ！　ロンドンからの知らせ!!」）

セディ
アニー
ドリンコート伯爵
○
ハビシャム
コンスタンシア
ロリデル男爵
メロン夫人
ジェーン
ブリジット

ジェファーソン
コッキー
ウィルキンス
ピーター
ハートル
ハーディング伯爵
ハーディング夫人

1 邸への道

馬車が進んで行く。乗っているのはブリジット。懐しそうに前方の邸を見やる。

2 邸・階段

セディが駆け降りて来る。その後からジェーンが続く。
玄関へ急ぐセディとジェーン。

3 玄関前

馬車の扉を開けるフローレンス。ブリジットが馬車から降りる。

セディ「ブリジット！」

ブリジット「……!!」

階段の上にセディが立っている。

ブリジット「セディ!」

駆け寄り手を握りあう二人。

セディ「ブリジット、会いたかった!!」

ブリジット「私も! 私もよ、セディ!!」

ブリジットの目から涙がこぼれ落ちる。

セディ「ブリジットは泣き虫なんかじゃなかったのに!」

ブリジット「だって……涙が勝手に出て来ちゃうのよ……」

泣き笑いし乍ら、涙を拭うブリジット。

見ていたジェーンも涙を拭い、ブリジットに近づく。

ジェーン「よくいらっしゃいました、ブリジット様」

ブリジット「ジェーン」

ジェーン「お嬢様の元気なお姿が見られて、私、嬉しゅうございます。本当によくお出で下さいました」

ブリジット「ありがとう、ジェーン！」

再び涙をこぼすブリジット。ジェーンも目頭を押さえる。

少しばかり困っているセディ。二人の気分を変えようと明るく言う。

セディ「さあ、ブリジット、中に入ろう！　話したい事がたくさんあるんだ！」

ブリジット「ええ！」

ブリジット「あ！　その前にお礼を言わなくちゃ！」

涙を拭うブリジット。

セディ「え⁈」

ブリジット「御招待、ありがとう」

セディ「（にっこりして）パーティにようこそ！」

ブリジット「素適なパーティになりそうね」

セディ「うん！」

4 執務室

ジェファーソンが招待状の整理をしている。リストを見て、宛名を書く。

ジェファーソン「ハーディング伯爵並びに伯爵夫人……と……」

コンスタンシアが入って来る。

ジェファーソン、立ち上がる。

コンスタンシア「あ、いいのよ、続けて頂戴」

ジェファーソン「それでは失礼させて頂きます」

コンスタンシア「大変ねえ、あなたも」

ジェファーソン「はい……あ、いいえ、これが私の仕事でございますから」

宛名書きを続けるジェファーソン。

コンスタンシア、何げなくリストを取りあげ目を通す。

コンスタンシア「……まあ！」

ジェファーソン「は?!」

コンスタンシア「このリストの中に、アニーさんの名前がないじゃない?!」

ジェファーソン「は、はあ……それは、そのう……」

コンスタンシア「兄が呼ばなくてもいいと言ったの！」

ジェファーソン「は、はあ……」

コンスタンシア「ジェファーソン、すぐにアニーさんへの招待状を書きなさい！」

ジェファーソン「そ、そんな事をしたら、御前にお叱りを受けます!!」

コンスタンシア「兄には私から話します。さあ、書きなさい」

ジェファーソン「しかし、コンスタンシア様……」

コンスタンシア「これは命令です、ジェファーソン！」

ジェファーソン「は、はいッ！」

5

伯爵の部屋

ブリジットが伯爵に挨拶している。

ブリジット「御招待して頂き、ありがとうございます、おじい様」

伯　爵「うむ」

セディ「おじいさん、ハリスおばさんは身体の具合が良くないから来られないんだって！」

ブリジット「……………!!」

伯　爵「ほう……残念な事じゃな」

伯爵の言葉に一瞬驚くブリジット。

ブリジット「母がよろしくと申しておりました」

伯　爵「うむ。母の代りにお前が楽しむ事じゃな」

ブリジット「は、はい。ありがとうございます」

面くらっているブリジット。

にこにこ顔のセディ。

6 廊下

メロンがやって来る。一方からコンスタンシアがやって来て声をかける。

コンスタンシア「メロン夫人。兄はお部屋なの?」
メロン「はい。若君とブリジットお嬢様とお話しておいでです」
コンスタンシア「そう……それじゃ、先にこれを届けて来るわ」

手にした招待状をヒラヒラさせる。

メロン「何でございますか、それは?」
コンスタンシア「いいものよ!」

スタスタと去って行くコンスタンシア。

7 庭

セディとブリジットが歩いている。ついて行くデュー

ガル。

ブリジット「驚いた！」

セディ「何が?!」

ブリジット「おじい様の事よ」

セディ「おじいさんがどうかしたの？」

ブリジット「だって、あんなに優しいんだもの！」

セディ「おじいさんは優しいよ！」

ブリジット「だって以前は……」

セディの顔を見ると、セディは不思議そうな顔をしている。ブリジットはそれ以上言えなくなってしまう。

ブリジット「……………」

セディ「どうしたんだい？　ブリジット」

ブリジット「ううん、いいの！　さあ、セディの自慢の馬を見に行きましょう！」

と、駆け出すブリジット。

セディ「ブリジット！」

追いかけるセディ。デューガル、ゆっくりとついて行く。

8 コート・ロッジ・応接室

招待状を差し出すコンスタンシア。

コンスタンシア「必ず来て頂戴ね、アニーさん」

アニー「でも、コンスタンシア様……」

コンスタンシア「兄の事なら私にまかせて下さいな。きっと説得してみせます」

アニー「……………」

困惑気味に招待状を見つめるアニー。

その様子を凝っと見つめるケティとコッキー。

コンスタンシア「これはセドリックのためのパーティなのよ。母親

のあなたが出席するのは当然のこと。それに、あなたがいればセドリックがどんなに喜ぶことでしょう！」
アニー「コンスタンシア様……」
コンスタンシア「お願い、ぜひ出席して頂戴。セドリックのためにも！」
アニー「………」
コンスタンシア「アニーさん」
アニー「はい。伯爵がお許し下さるのなら」
コンスタンシア「よかった。後はあの頑固者を説得するだけね！」
ホッとするコンスタンシア。同、ケティ。
コッキー「私も行きたいなあ、パーティ」
ケティ「これ、コッキー、何を言うの」
コッキー「だって、おばちゃんも行くのに……」
ケティ「お前が行けるパーティじゃないの」

コッキー「そんなの、つまんない！」

コンスタンシア「そうねえ、今度のパーティは無理だけど、その代り、私がコッキーのためにパーティを開きましょう」

コッキー「ほんと⁈」

コンスタンシア「ええ、約束します」

コッキー「お兄ちゃんも一緒⁈」

コンスタンシア「ええ、一緒！」

コッキー「ウワ〜イ！」

ケティ「申し訳ございません、コンスタンシア様。でも、この子のために、そのような……」

コンスタンシア「いいのよ、ケティ。アニーさんも賛成してくれるでしょ？」

アニー「はい」

幸福そうに頷くアニー。

9

厩舎の前

セディ「ほんと⁈　ほんとに母さんが出席するの⁈」

ジェーン「はい。コンスタンシア様が招待状を持ってコート・ロッジへ行かれたと、メロンさんが言ってました」

セディ「うわッ、嬉しい、嬉しいよ、ぼく‼」

ジェーン「はい！」

ブリジット「セディ！　よかった‼」

セディ「うん！」

手をとりあって喜ぶセディ・ブリジット。

目を潤ませて頷くジェーンとウィルキンス。

10

伯爵の部屋

伯爵の怒声が響く。

伯　爵「許さん!!」
コンスタンシア「お兄様!」
伯　爵「あの女を呼ぶ必要はない!」
コンスタンシア「あの女?! セドリックの母親ですよ!」
伯　爵「セドリックの母親であろうが、わしには何の関わりはない」
コンスタンシア「お兄様! そんな身勝手が許されると思っているの!」
伯　爵「ええいッ、うるさい! あの女を呼ぶ位なら、パーティなどやめてしまえッ!!」
コンスタンシア「…………」
呆然とするコンスタンシアとハリー。
頑固にそっぽを向く伯爵。
悲しみの顔つきでうなだれているメロンとジェファーソン。

11

セディの部屋

セディ「来ないの？　母さん！」

メロン「はい、若君……」

セディ「そんな……そんな……」

メロン「……………」

ジェーン「申し訳ございません。私が早とちりしたばかりに、若君に……」

セディ「ぼく、おじいさんにお願いしてみる！」

メロン「あ、若君！」

部屋から飛び出して行くセディ。

追いかけて行くブリジット。

12 廊下

駆けて来るセディ。追いかけるブリジット。

ブリジット「待って！　待ってよ、セディ！」

その声を無視して駆けて行くセディ。

13 伯爵の部屋の前

セディが駆けて来る。

ハリー「セドリック、待ちなさい」

セディ「……!!」

ハリー「今は伯爵と会わない方がよい」

セディ「でも……」

ハリー「その方がいいんだ！」

セディ「……」

ハリー「悲しいだろうが待つんだ。そのうちきっと良い結果がでる」
セディ「はい……」

14 コート・ロッジ・応接間

コンスタンシア「アニーさん、ごめんなさい。私がでしゃばったばかりに、かえってあなたを悲しませてしまった」

沈痛な顔つきのコンスタンシア。

アニー「……」

無言でかぶりを振るアニー。

コンスタンシア「兄に代わってお詫びを言います。全く、あのわからず屋は……」
アニー「コンスタンシア様」
コンスタンシア「え?!」
アニー「私はいつまでも待つつもりでございます。伯爵が私をあの

子の母親と認めて下さるまで」
コンスタンシア「それではあなたが可哀想よ！」
アニー「今は伯爵がセディを愛して下さるだけで充分でございます。
あの子を幸福にして下さるだけで」
コンスタンシア「あなた、本当にそれでいいの？」
アニー「はい」
コンスタンシア「セドリックはあなたに来て欲しいと思ってる筈よ」
アニー「セディはいつも私の言う事を素直に聞いてくれます。きっと分ってくれると思います」
コンスタンシア「アニーさん……」

15 路

帰って行くコンスタンシア。
深いタメ息をつく。

16

コート・ロッジ・庭

ブランコに坐っているアニー。
持っていた招待状をゆっくりと破る。
ふたつに破られた招待状を見つめるアニー。その目に涙が滲み出る。
ケティとコッキーがやって来て、アニーを見つめる。
ブランコに腰をおろし嗚咽するアニー。
コッキー、走り寄ろうとする。ケティが手で止め、眼顔で傍へ寄るなと告げる。
ケティ「……お気の毒なアニー様!」
見ているケティ、コッキー、ライラ。

17

伯爵の邸・セディの部屋(夕)

窓辺に立ちコート・ロッジを見つめるセディ。その姿を痛ましく見つめるジェーンとブリジット。

18 コート・ロッジ

ブランコに坐るアニー。

19 セディの部屋

セディの悲しい顔。

20 伯爵の部屋

厳しい顔つきで坐っている伯爵。彼もまた孤独である。

21

セディの部屋

悲しみのセディ。

—中CM—

22　路

アニーが馬車を走らせる。

セディの声「母さーん！」
アニー「セディ！」

リトル・プリンスに乗ってやって来るセディ。

23　林の中

紅葉の下にセディとアニー。

セディ「おじいさんはどうして母さんを呼ばないの？」
アニー「セディ、おじい様はその方が一番良いと思っていらっしゃるのよ」
セディ「でもぼくは母さんに来て貰いたかったのに！」
アニー「おじい様はきっと一緒に暮らせるようにして下さいます」

セディ「いつなの?!」
アニー「その時が来れば」
セディ「その時って、いつ?!」
激しく言うセディ。アニー、その語調に一瞬言葉を詰まらせるが、やがて、やさしく静かに言う。
アニー「セディ、父さんと一緒だった頃をおぼえている?」
セディ「うん!」
アニー「父さんはいつも家族は仲良く暮らさなければって言ってたわね!」
セディ「うん!」
二人の脳裏にジェイムズの思い出がよみがえる。

24

セディとアニーとジェイムズ

――ニューヨーク。

――盛り場をセディと歩くアニー、ジェイムズ。

――野球をするセディを見ているアニーとジェイムズ。

――絵を描くジェイムズ、編物をするアニーの傍にぴったり寄り添うセディ。

――橋を渡っていくアニーとジェイムズ。

――明るいセディの顔……顔……顔。

25

元の林の中

アニー「おじい様もきっと父さんと同じ事を思っていらっしゃるわ」

セディ「おじいさんも！」

アニー「ええ。家族仲良く暮らさなければならないって！　でも、おじい様はずっとおひとりで暮らしてきたから、まだ仲良く暮らす事には慣れていないの」

セディ「……………」
アニー「おじい様は今、一生懸命に慣れようとしているの。だから、その日が来るまで私たちも一生懸命おじい様を応援しましょう」
セディ「うん！」
アニー「三人一緒に暮らせるまで、その日まで、おじい様を信じて待つのよ」
セディ「うん！　ぼく、待つよ、母さん！」
アニー「そう、よかった」
セディをやさしく抱きしめるアニー。

26

田園風景

紅葉が降るように落ちていく。

27 邸

パーティを今夜にひかえてあわただしい。

28 セディの部屋

ジェーンがセディの着替えを手伝う。

ジェーン「いよいよ今夜ですね、セディのパーティは！」

セディ「おじいさんのお友達、たくさん来るんだろうなあ！」

ジェーン「はい、それはもう！」

セディ「ぼく、何だか胸がドキドキしちゃうよ！」

ジェーン「私も！　私もですわ！」

思わず大声で言ってしまい、顔を赤らめるジェーン。

セディ、にっこり。

29

村の路（夕）

夕焼空の下を――二頭立て、四頭立ての馬車が邸へ向って進んで行く。

道脇の柵に腰かけて眺めているコッキー、ピーター、ハートル。飛び乗ろうとして落ちてばかりいるライラ。

ピーター「見たろう、コッキーもハートルも……どの馬車も、どの馬車も紋章入りだ」

ハートル「乗ってるのはみんな貴族なんだね」

ピーター「あったぼうよ！　セディが貴族の仲間入りをするってエおひろめのパーティなんだからな」

ハートル「さっきからずーっと続いてるね、馬車の列が……国中から貴族が全部集って来るみたい！」

ピーター「セディもとうとう貴族サマかあ」

ハートル「セディはもうぼくたちとは遊んでくれなくなるのかなあ」

コッキー「そんな事ないわよ！　おにいちゃんはともだちだもの」
やっと飛び乗ったライラ、そうだと鳴く。
ピーター「セディは貴族になってもおいらとは友達よ。大事な友達だあな」
ハートル「そうだよね。セディもぼくたちの事をそう考えてくれてるよね！」
馬車の列がどんどん続いている。

30　伯爵の邸・玄関の外（夕）

停った馬車から降りる老貴族夫妻。
頭を下げて迎える礼装のジェファーソン。
玄関のドアまでの階段に敷かれた赤い絨緞を踏んで進んで行く老貴族夫妻。
次の馬車が停る。

31 玄関の中

盛装の伯爵の隣りに礼装白手袋を握って立つセディ。
まさにリトル・プリンスだ。
入って来た老貴族夫妻を迎える。

伯爵「ようこそ、ハーディング伯爵。ロード・フォントルロイ・
セドリック・エロルを紹介します」

セディ「ようこそいらっしゃいませ。セドリック・エロルです」

右手をさし出す。

ハーディング「よろしく」

握手してセディの可愛らしさに相好崩す。

セディ「はじめまして。お疲れではございませんか」

夫人「まあ……その一言で疲れなどすっかり忘れてしまいますよ」

32 大広間（夜）

胸に勲章をつけた老貴族、ドレスに装身具で着飾った
夫人達で埋め尽されている。
その中を給仕達が酒のグラスを一杯乗せたお盆を手に
動き回っている。
セディを傍に連れた伯爵、得意満面で貴族夫妻に紹介。
笑顔で握手をするセディ。
ブリジットが嬉しそうに見ている。
満足気に見ているコンスタンシアとロリデール男爵。

コンスタンシア「活々と嬉しそうで満足しきった、あのような兄の
顔を見るのは生れて初めてだわ」

男爵「判るよ。どこから見ても非の打ちどころのない素晴らしい
子だからな」

33

コート・ロッジ、アニーの家・居間（夜）

アニー、テーブルについているケティとコッキーのグラスにジュースを注ぐ。
手作り料理が並んでいる。
アニー「それでは、セディに、おめでとうの乾杯をしましょう。さ、グラスをとって」
ケティ、グラスに手を出すが涙が頬を伝ってこぼれ落ちたので手の甲で拭う。
アニー「ケティ、セディのお祝いに涙はいらないわ」
ケティ「はい。アニー様……申し訳ございません」
どうしたの、という表情で見ているコッキー、ライラ。
ケティ、眼をショボショボさせてグラスをとり前に出す。
ケティ「アニー様、おめでとうございます」
コッキー「（よく判らない）アニーおばさん、おめでとう」
グラスを真似して前に出す。

アニー「（笑顔になり二人を見て）ありがとう、ケティ、コッキー」

カチッ、カチッ、グラスをぶつける。

コッキー「（グイッと飲み干し）おいしそォ！……いっただきまーす！」

その明るさにつられ笑顔になるケティ。

ケティ「コッキーったら、行儀の悪い！」

アニー「いいのよ、コッキー。沢山召し上れ」

コッキー「はーい！」

34 大広間

一段高見に立った伯爵とセディ。

手に手にグラスを持った来客が二人を見守っている。

ブリジットの顔もある。

満足気なコンスタンシア、男爵。

出入口のドア近くにメロンとジェーン。

伯　爵「えー、それでは一言だけ、お礼を述べさせて頂きます。ドリンコート伯爵、即ち、私の後継者であるロード・フォントルロイ・セドリック・エロルの披露晩餐会に、遠路御来駕をたまわりまして誠に恐懼に思っております。ロード・フォントルロイ・セドリック・エロルは、ごらんの通りのまだまだ若輩でございます」

伯爵、セディを自分の前に立たせる。

白手袋を握りしめ毅然としたセディ。

伯　爵「何かと皆さんのお力添えが必要かと存じます。よろしくきびしく御鞭撻の程お願い申し上げます」

拍手が起こる。

夢中で拍手するブリジット。

コンスタンシア、男爵。

メロン、ジェーン、ジェファーソンも涙を一杯ためて

拍手を送っている。

四方へ頭をさげているセディ。

拍手が一層大きく湧き上る。

ブリジット「立派よ！　セディ！」

夢中で叫んで拍手するが拍手とどよめきにその声もかき消されてしまう。

頭を上げたセディ、ブリジットが見える。

ブリジット、背伸びして手を振る。

メロン夫人の眼から涙があふれる。

メロン「（ハンカチで抑え）なんと凛々しく、御立派に見えますこと！」

ジェーン「（涙を拭い）本当に！」

メロン「このお姿を、ひとめ……ひとめ、アニー様にお見せしとうございました！」

35

コート・ロッジ、アニーの家・庭（夜）

月明りの下に佇んでいるアニー。

彼方に伯爵の邸が照明が当って闇の中に浮び上るように見えている。

アニー「セディ！……」

月光がアニーの美しい顔に当っている。

36

邸・大広間（夜）

拍手の渦の中に晴れがましく笑顔で立っているセディ。

37

月明りの白い道

馬車で走る。

38 馬車の中

厳しい顔つきのハビシャムが乗っている。
馬車の天井をドンドンと叩く。

ハビシャム「急げ！　急ぐんだ！」

39 大広間

ブリジットと踊るセディ。
満足気な伯爵。

40 玄関前

ハビシャムを乗せた馬車が停まる。
飛び降りるハビシャム。

41

同・玄関の中（夜）

駈け込んで来るハビシャム。

ジェファーソンが驚いて見迎える。

ジェファーソン「時間には正確なハビシャム様が、こんなに遅れて如何なさいました！」

ハビシャム、顔にふき出た汗を拭おうともせずコートを脱ぐのももどかしく音楽が聞える大広間へ向う。

ジェファーソン「ハビシャム様！」

追いかけるとハビシャムは脱いだコートを渡し、廊下を走りだす。

ジェファーソン「?!……」

42

長い廊下（夜）

壁に並んだ照明が向うまで灯いている。
ハビシャム、ハンカチで顔の汗を拭き拭き奥の大広間へ駈けて行く。

43 大広間（夜）

入って来たハビシャム、立尽す。
音楽の演奏に奏せて踊っている客達。
近くにいたメロンとジェーン、驚く。
メロン「ハビシャム様！」
ジェーン「何あわてておられるのですか！」
ハビシャム「御前は⁈……あ、あそこか！」
血相変えて人混みをかき分けて進む。
訝り顔を見合わすメロンとジェーン。
セディはブリジットと果物を食べている。

ハビシャム「（表情が曇る）若君！……」
その呟きは勿論セディには聞えない。
ハビシャム、人混みをかき分け、伯爵に近付く。

ハビシャム「御前！」

伯　爵「ハビシャム！　遅いではないか……お前が時間に遅れてやって来るとは、初めてではないのか！」

ハビシャム「御前……」
伯爵を一方へ誘い、その耳許で、

ハビシャム「（チラリとセディを見て）此処ではなんでございますので、おそれいりますが、お部屋でお話したい事が！」

44

伯爵の部屋（夜）

入って来た伯爵、続いて入って来るハビシャムをふり

向くと、

伯　爵「わしに話したい事とは何だ?」

ハビシャム「若君の事で、天下の一大事でございます!」

ハビシャム、伯爵の耳許で何か言う。

伯　爵「何ッ!!」

サッと表情を変えハビシャムを恐ろしい眼で睨みつける。

吃驚して見ているデューガル。

45 大広間

セディ、笑顔でブリジットの手をとり音楽に奏せて体を踊らせている。

セディの底抜けに愉しそうな笑顔。

ーつづくー